

＜1. 現状と課題＞

- すべての市民が生涯にわたって自ら学び、その成果を活かすことができる「生涯学習社会」の実現のため、本市では、市民や団体の主体的な活動を支援しており、市内では公民館などを拠点として多くの生涯学習活動が行われています。
- 「人生100年時代」や「超スマート社会(Society5.0)」の到来など、劇的に変化する社会をより豊かに生きるため、生涯にわたって自ら学習し、自己の能力を高めるとともに、働くことや地域・社会の課題解決につなげていくことの必要性がより一層高まっています。

【多様な学習ニーズへの対応と充実した学習機会の提供】

- 市民の様々な課題解決のために、本市では学習活動の支援や、学習機会の提供に取り組んでいますが、今後も社会情勢の変化などにより求められる新たな学習ニーズへの対応が必要です。また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、新たな生活様式に合わせた非接触・非対面型の学習活動への対応が必要です。
- 令和元(2019)年度の生涯学習に関するアンケート調査では、1年間に市が主催した講演会・学習会・催し物に「参加したことがある」市民の割合は14.3%、「知っていたが、参加しなかった」市民の割合は37.7%で、事業の開催を「知らなかった」と回答した人の割合は45.8%と半数近くとなっていることから、魅力的な事業の創出とともに、事業やイベントなど生涯学習に関する情報の発信を推進していく必要があります。
- 図書館では、市民の「読みたい・調べたい・学びたい」に応えるため、開館時間の延長や図書館と公民館図書室等とのネットワーク化の推進、インターネットによるサービス利用の拡大、レファレンスサービス^(注1)の充実など、図書館サービスの向上に努めてきましたが、今後も市民の学びや課題の解決に資するサービスの提供が必要です。
- 青少年を取り巻く環境やライフスタイルは、核家族世帯やひとり親世帯の増加や近隣住民とのつきあいがほとんどない人の割合の増加、青少年のインターネットの利用時間の増加など、複雑・多様化していることから、青少年の家族と過ごす時間や地域とのつながり、実体験の機会の減少が懸念されます。

【学習と活動の循環】

- 公民館や図書館、青少年教育施設などの社会教育施設では、団体やボランティアなどの協力を得て事業を実施していますが、社会教育に関する事業を行うことを目的とする社会教育関係団体の数は、平成27(2015)年度の2,255団体から令和元(2019)年度の2,163団体と減少傾向にあり、高齢化や会員の減少などが課題となっています。
- 令和元(2019)年度の生涯学習に関するアンケート調査では、学びの成果を自分以外のために「既に活かしている」と回答した人の割合が12.7%、「活かそうと思わない」が18.3%、「どちらかといえば、活かしたい」が32.7%、「今は活かしていないが、今後活かしたいと思っている」が18.8%となっています。また、学びの成果を活かしたい人が求める支援は、「知識・技能や経験を活かしたい人と活動の場を結ぶ役割の充実」や「地域活動・ボランティア活動の情報提供の充実」、「同じ分野の人材交流」が上位となっています。

＜2. 施策の方向＞

施策1 多様な学習ニーズへの対応と充実した学習機会の提供

市民一人一人が生涯にわたって学び続けられるよう、社会の変化に対応した学習や一人一人のライフステージに対応した学習を支援します。

市民が学びや課題の解決に関する情報を得られるよう、必要な時に必要な情報を入手できる環境を整備します。

青少年の活動意欲やコミュニケーション能力の向上、自立心の育成を図るため、体験活動の機会と場を提供します。

当施策における主な取り組み

- ◆ 新たな学習スタイルへの対応
- ◆ 社会教育施設での課題解決に向けた相談・情報提供の充実
- ◆ 青少年健全育成事業の充実

施策2 学習と活動の循環

幅広い世代の市民が、学びによって身につけた技能・知識等を活かして、地域や社会の課題を解決できるよう、人材・団体を育成・支援するとともに、交流機会の創出や、学びの成果等を活動につなげる体制の構築を図ります。

当施策における主な取り組み

- ◆ 地域・社会で活躍する人材・団体の育成と支援
- ◆ 交流機会の創出と地域・社会への参画促進
- ◆ 学びの成果を活かすボランティア制度の構築